

からたち関西

発行 / 石川県立金沢二水高校関西同窓会 2011年(平成23年)3月

VOL.11



花ぞ昔の香に匂ひける

会長(関西支部長)

17期 林 茂

わが同窓会関西支部は、創成期を過ぎて円熟期ともいえる11年目を迎えました。会員相互の親睦を深めるとともに、その輪を広げようと同窓会ネット、ビアパーティー、まほろばハイキングなど各種イベントを企画してきましたが、その役割はますます大きくなってきています。関西在住の卒業生は、約900名の方々がいらっしゃるらしいのですが、各種のイベントに参加していただけるかたが、年々減少傾向に

あります。とくに心配なのが、25～35期までの若手の方々の参加が少なく、どのようにしたら参加いただけるかが大きな課題となっています。各種イベントの見直しを含め、今年度は参加人数の拡大に取り組んでいかなければと思っています。「昔を懐かしむ」「ノスタルジアを求めて」「故郷を思って」などで、同窓会に参加し、癒しの時間を仲間と過ごしてみませんか。百人一首、紀貫之の歌に「人はいざ心も知らずふるさは花ぞ昔の香に匂ひける」(人はさあ、あなたも含めて心の内がわかりませんが、ふるさとは、花は昔と変わらない香りで匂っています。)とあります。同窓会では、創成期から昔と変わらない香りであなたの参加を待っています。

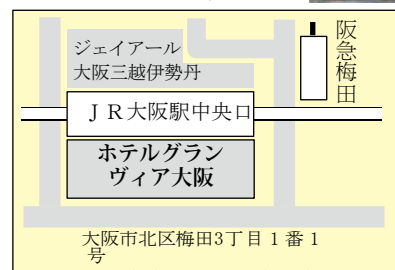
第12回総会&懇親会は4月17日、ホテルグランヴィア大阪で開催します。

新しくなった大阪駅を見に来ませんか

大阪駅は大阪の玄関口としての地位を占める西日本最大の駅です。明治時代初めの開業当初は「梅田すてんしょ」などと呼ばれていました。現在の駅舎は四代目で、大阪駅北地区(うめきた)のまちづくりに先駆けて、2004年より「大阪駅開発プロジェクト」が進行中です。【発見。感動。OSAKA Grand Station】をコンセプトに関西・大阪の玄関口にふさわしい快適で賑わいのあるターミナル拠点として整備されます。大阪駅のデパートといえば「大丸」。その売場面積が約1.6倍(64,000㎡)に増加します。また大阪キタの新しい顔として「ジェイアール大阪三越伊勢丹」(50,000㎡)が誕生します。併せて橋上駅舎も整備され、連絡橋からは列車のジオラマが楽しめます。



■ホテルグランヴィア大阪



- 1.サウスゲートビルディング 3月16日(水)増築開業
大丸梅田店、ホテルグランヴィア大阪など
- 2.大阪駅橋上駅舎 4月11日(月)本格使用開始
南北連絡橋
- 3.金沢二水高校関西同窓会 4月17日(日) 第12回総会&懇親会
ホテルグランヴィア大阪「名庭の間」12:00
会費 5,500円
- 4.ノースゲートビルディング 5月4日(祝)開業
(OSAKA STATION CITY グランドオープン) ジェイアール大
阪三越伊勢丹、専門店街 LUCUA (ルクア)、大阪 ステーショ
ンシネマなど





奇想の薦め

8期 松田堅太郎

中島義道著『私の嫌いな10の人々』新潮社刊に賛同しています。「嫌いな10の人々」とは、要約すれば「少し自己主張したがり善男善女」の事だったのです。問題なのは、そんな善男善女が浮かべるアイデアは平凡で、当たり前で、真面目で、当たり障りのない平凡な発想に思えてなりません。

エジソン、ベル、テスラの諸氏は一般の人々から見れば奇人だったのですが、全て、ものの見方が一般の人々と異なっていたから変わった新しい発想により発明ができたのです。

偉大な奇人発明家にあやかって奇想の発想を試みるのもアイデア、発明の効果的な訓練に成りますので挑戦してみてください。ここから色々なアイデアが発想されるはずです。

【猿はお尻を拭かない】

人とDNAが僅か2.5%程しか違わないそうですが、彼らは用後お尻を拭かないし嘗める事もしません。人間以外の動物でお尻を拭く動物は無く、毛づくろいの延長で時々尻を嘗める行為は有るものの、それは排便後に必ず付随する行為ではない。動物は皆、排便後は拭かなくても綺麗な尻をしている。人間もそうあるべきで、即ち、排便後トイレットペーパーで拭いて、そのペーパーに目視で何らの汚れも着いていないという状態で有るべきだと言いたいのです。

人と猿の間では食習慣が異なります。それは、動物性蛋白質と植物性蛋白質の違いです。猿の動物性蛋白質摂取量は極少量の昆虫類で10%前後であり、人のそれは30～70%になるようです。

猿に比べて人は植物性蛋白質と付随する植物繊維の摂取量が非常に少なくなっています。この食習慣が排便の質を悪くし、用後のお尻を汚すように成った、との考えからつぎの実験を試みました。

毎日の食事に少しずつ植物性食品の割合を増やして行くと、ある時点で用後全く尻に汚れがつかなくなる時が有ります。「ああ、この時の食材、お猿の食事だなあ」とひとり喜んだりしています。人間だと威張っていても、腸は猿のままだったんです。皆さんの顔がお猿さんに見えてきましたよ。そうだ、アイデアを真似するのって、猿真似って言うんだぞ。お尻を汚さないきれいな排便は、腸の健康な証拠、腸の健康は体全体の健康を保証する。ここに新しいアイデアの種がいっぱい出てきます。



二方に水別れ

13期 今井 清博

1958年4月、二水高校入学。木造の穴水校舎。犀川と浅野川に挟まれた金沢の中心にあるので「二水」と命名された。教師から聞かされた。その年の夏に、緑が丘の鉄筋コンクリートの新しい校舎に移転。廊下のない学校として建築界で騒がれた設計だとか。冬の日照の乏しいとき、休み時間には教室のベランダに出て日光浴をした。毎日、金石から北陸金石線、市電を乗り継いで、終点の寺町三丁目から歩いた。60年安保闘争で国中が争乱状態に。訳も分からず、文化祭のとき、運動場で岸首相のほりこを担いで歩いた。

1961年4月、新しく創設された大阪大学基礎工学部電気工学科に入学。一人で箕面市で下宿生活。カルチャーショックと大阪弁の洗礼を受けた。冬は、金沢の天気荒れるほど、大阪では好天になった。大阪からの帰省では、準急「ゆのくに号」で柳ヶ瀬峠のスイッチバックを経て6時間半かかっていたのが、長さ13.8kmの北陸トンネルが開通し、更に電化で、特急「雷鳥号」で3時間となった。百万石って一体何だったんだろうという疑問に悩むも、ふるさとはやはり金沢。生まれ故郷は何処で尋ねられると、誇らしげに「金沢」と答えた。

阪大の大学院進学するとき、電気工学から生命科学に転向し、ヘモグロビンという蛋白質の研究に励んだ。「生命は蛋白質の存在様式である」という命題の遵奉者であった。当時は、真空管から半導体のトランジスタへの過渡期であり、将来の発展に期待が高まっていたが、「いのち」の学問にライフワークを求めた。いわゆる70年安保闘争のとき、大学の建物が封鎖されたことも。学位取得後、阪大医学部の生理学教室で医者のお卵を教えながら研究を続けた。アメリカのペンシルバニア大学やイギリスのケンブリッジ大学へ在外研究に出かけたり、国際会議に足繁く出かけて、「いのち」の仕組みに迫ろうとした。阪大では入学以来41年間の長きにわたって活動を続け、そこにひとつの「水の流れ」ができた。

2002年9月、法政大学工学部物質化学科に単身で赴任した。それまで、大阪で20年間続けていた合唱団と10年間続けていた写真クラブでの趣味の活動を断ち切れず週末には吹田市の留守宅に帰ってそれらの活動を続ける生活が続いている。法政大では、それまで皆無であった生命科学の学科、さらに学部を創設する任務を負わされた。多忙であるが、やりがいのある仕事である。最近、ようやくこの仕事の実を結ぼうとしている。関東の文化や習慣にも慣れてきたここに、もうひとつの「水の流れ」ができた。

いま思うに、これらの二方の水の流れは、もともと同じ源流すなわち、二水高で学んだことから発している。二水高で教わった生物、化学、物理のいずれも、現在の自分の学識の基礎になって今も脈打っている。そして、これらの流れは、いま、私の心の中で一つに合流しようとしている。美しき暁に始まり、美しき夕焼けに輝くように。定年までもう少し頑張りたいと思っている。



ありがとう大阪

18期 森原真紗恵

長年住み慣れた東京から主人の仕事の都合で大阪に移り住んだのは阪神淡路大震災の2年後の春でした。半年前に主人が単身での生活を始めていました。2人の息子は共に大学生になっており、私が夫の元に移り住む決断をすることは容易でした。

ほとんどの家具は東京に置き、私達は必要な物だけを最小限買い求め大阪の地での生活を始めました。スタートはまるで新婚時代のようにスッキリしたものでした。それから14年、今部屋をぐるりと見回すと何と物が増えたことか。自分の事ながらあきれてしまいます。毎日少しずつ要・不要を見極め断捨離をすすめつつ、今春、関東に戻る準備をしています。

14年前、友人からいろんな話を聞かされつつ大阪にやって来たのですが、不思議と私の心は軽くワクワクと期待に満ちていました。思ったとおり大阪の水は優しく思いやりに溢れ私はその日から人の中に入って行くことが出来たのです。テニスをまず再開、以前から憧れていたクラシックギターも始めました。カルチャーが盛んで手近なもの関西ならではの魅力です。欲ばりで忙しい元気な毎日でした。

そんな中で介護が始まりました。金沢の私の両親を順に送り、休む間もなく広島的主人両親の介護が始まりました。時間と体力がかなり必要、知恵をしぼる毎日でした。車で長距離介護も8年続くとかなりしんどいものがあります。そうこうしているうちに「時」が来たのでしょうか、2人揃って同じ施設に入れていただくことが出来たのです。昨年のことです。98歳と96歳、2人並んで毎日穏やかに食事をお召し上がりいただいています。

人は「安心感」というお薬をいただくと落ち着き自分を取り戻すことが出来るのですね。支えて下さるすべての方々に感謝です。この大阪での生活の中で、両親を送り、3人の孫を迎えました。命は繋がっていくものなんだと実感しました。

主人の妹が51歳で他界した時、義母は目にいっぱい涙を溜め「こればかりは生まれた時からの神様との